「森銑三刈谷の会」だより 33(2024/7/20)

発行 2024/7/20 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

33:2024/6/15 (土) 鈴木哲「森銑三の百科事典項目
『大田南畝』」: 参加 14 人

森銑三の百科事典項目発見!?から始まった

鈴木哲

「大田」執着は「大田南畝のオホタは大田に作るを正しとする」(森銑三著作集続編 1(1992):496)による。私の愛読書は百科事典である。9種類の大型百科を持つ。森(1971/2)「大田南畝小伝」『ももんが』(著作集続編 1(1992):492)の「二十七巻という大がかりな百科事典」から TBS ブリタニカ(1972-75)『ブリタニカ国際大百科事典』と分かる。ブリタニカ「大田南畝」(1972, 3:305-06)末尾に「森銑三」とある。森(1895-1985)を執筆推薦したのは中村幸彦(1911-98)と考えられる。中村は「上田秋成」「狂歌」などをブリタニカに執筆するとともに、『森銑三著作集』(1970-72)編集委員である。

ブリタニカ原稿「大田南畝小伝」とブリタニカ立項を読み比べた。3千字の大項目である。年西暦換算は前者になく、後者は補う。「標致」は後者では「標置」である。「江戸時代三〇〇年を通して南畝ほどに一般庶民から親しまれ、かつ慕われた人物はなかった」は前者にない。森の百科事典項目を知る人はほとんどいない。原稿と読み比べたのはこの会くらいだろう。

知る事は幸せなことです

飯田芳子

「身は酒徒に混じてもその守を失なわず」と大田南畝墓碑銘にあるそうです。比較文学のようで面白かったことが一つ。南畝を書こうとして達せられない銑三の元へ執筆依頼が来たお陰で文章を残してくれた『ブリタニカ』への感謝が二つ。要を得て膨らみあって品位ある文章への依頼が三つ。知る事は幸せなことです。漠然が形として示されたことに感謝した時間でした。

「おほた子を声によめばだいた子よ」

河橋育実

女性は「おほた子を声によめばだいた子よ」は「おんぶした子・抱っこした子」と直ぐに分かったと思いました。狂歌「山の横面はる風ぞ」は『ももんが』と『ブリタニカ』で仮名遣いが違い、気づけば面白さが分かっただろうと思いました。狂歌にも本歌取りがあり、教養があればより楽しめるものなのですね。文章にこだわる銑三さんだから『ブリタニカ』の文章はお

気に召さなかつただろうけど、理解されなければ事典の意味がないですものね。対比で良く分かりました。

いろんな角度から見たり考えたりする

神谷明子

大田南畝の話、名前から考えている。ペンネームだからかな? 学校で習うことは深入りしない。クイズの答えは知っているけど、何故そうなったとか、誰が主になってリードしたとか、何が元で進んだのかなど、いろんな角度から見たり考えたりするからこの会が好きです。池に投げた石の波紋が広がる如くですね。

「大田南畝小伝」(『ももんが』1971/2)のなぞ解き

神谷磨利子

No. 31 (2024/4/13) 飯田芳子さんの木村兼葭堂に出た「大田南畝」の用字に始まり、『ももんが』「大田南畝小伝」と『ブリタニカ国際大百科事典』「大田南畝」との比較読みはなぞ解きのように大変面白かった。森銑三「読書日記」(『著作集続編』14)には、昭和9年6月に南畝旧蔵本を見、数年ぶりに荷風を訪れ南畝について語りあったことが書かれている。No. 30 (2024/3/16) 永井荷風「断腸亭日乗」とも通じ、兼葭堂→南畝→荷風→銑三へと人のつながり・本の広がりを感じた。〈紙面の都合で一部編集省略させていただきました[哲]〉

予定 2024

34:2024/7/20(土) 長嶋秀雄「森銑三未発表草稿『子供等のこと』を読む」

35:2024/8/17(土) 正木敦子・神谷磨利子「金子民雄(1936-)への書簡から探る森銑三と掃苔会」

〈関連行事〉2024/9/15(日) 13:30-刈谷市郷土文化研究会 談話会(中央図書館) 神谷磨利子「森銑三と『刈谷図書館所蔵 貴重図書目録』(1932)」

36:2024/9/21(土) 鈴木哲・河橋育実「森銑三(1895-1985)と外山滋比古(1923-2020)」

37:2024/10/19(土) 『武玉川選釈』を読む(仮)

38:2024/11/16(土) 鈴木哲「森銑三の西鶴『一代男』一作説と暉峻(てるおか)康隆(1905-2001)」

〈関連行事〉2024/11/23(土) 13:30-刈谷市郷土文化研究会文化講演会 塩村耕「村上忠順と森銑三」[仮題]

39:2024/12/21(土) 神谷磨利子「森銑三(1895-1985)と師・井上通泰(1866-1941)」